事務事業評価表

平成13年度	主要事業計画対象の	有無		電話 042 (769) 8202
担当部課名	企画部 ▼	文化国際	課 ▼		
事務事業名	施設維持補修費 文化会	事業コード	16110		

1 総合計画における位置づけ

政策名	第	6	章	彩りのある市民文化を創造します	事業	開始年度
基本施策名	第	1	節	多彩な市民文化の振興	13	▼ 年度
施策名	第	1	施策	豊かな市民文化の創造	13	→

2 実施根拠及び関連法令等

2	ᆂᄣᄪ	Ħ
~	# * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	щ

(1)事業の目的 (2)対象(誰、何) 文化会館施設の経年劣化した個所を修繕することにより、施設の機能維持を図り、会 施設利用者(入場者含 館利用者に適切な施設を提供する。 む) 対象 610,000人 数 (3)平成13年度事業の内容 (4)総合計画・実施計画における概要 ・施設修繕料 16,680千円 (内訳) ・トップライトシール打替 8,295千円 ・多目的ホール吊物ワイヤー交換 6,090千円 ・ピアノオーバーホール 2,295千円 (5)個別計画の概要 計画名 計画年次 年度~ 年度

4 評価指標

, HIIM114	+ nT								
指標名	修繕達成率	修繕予算に対する削減率							
指標式	修繕実施個所/当初計画修繕個所(× 100)	修繕予算額 / 修繕決算額 (× 100)							
指標設定 の意図	修繕達成率により、施設の維持機 能が図られていることを表す。	予算に対しての実績を指標とすることで、経費の削減率を表す。							

5 日煙と宝績 (全額単位・千円)

J	」 日保C 夫視 							
		平成11年度	平成12年度	平	成13年度(記	平価文	寸象年度)	平成14年度
		実績	実績		実績		目標	目標
	指標	100	100	а	100	b	100	100
	指標	100	100	C	101	d	100	100
	指標			е		f		
	決算(予算)額	19,150	2,940		16,680		16,900	3,724
事	人員・時間数	1人(24H)	1人(8H)	1人	(24H)	1)	(24H)	1人(16H)
業	人 件 費	101	34		101		101	67
赤	その他経費				0		0	0
_	合 計	19,251	2,974		16,781		17,001	3,791
	持定 財源	0	0		0		0	0

6 個別評価

6 個別評					
(1)達成度	モ・・・ 目標をどれだけ遺	を成しただ	1		
評価	A:達成している	(100%)		
Α 🔻	B:一部達成していた	t 1 (100%;	> 80%) = ,	、 の平均値 =	100.7%
	C:達成していない	(80%>)	, op 1 - 51E	1001170
		(00/0>	, 101.2		
a	100.0 × 100=	: 100.0%	<u>c 101.3</u>	-× 100= 101.3%	<u>e</u> × 100=
b	100.0		d 100.0		T T
理由:	計画どおりに進捗した。				
(2)必要性	・・・・時代変化に適応	」た事業	内容か		
評価	A:適応している	理由:	施設の機能維持を図り	、会館利用者に適	切な施設を提供することにより、市民の
A -	B:一部適応していない	1			機会の充実に寄与している。
	C : 適応していない	1			
(3)経済性	t·効率性・・・費用対効	果は妥り	<u></u> 当か		
評価	A:妥当である		目標を達成することがで	でき 費田対効里!	† 妥当である
A -	B:一部妥当でない	- Ξ μ.			893600
	C:妥当でない	1			
(4) 車業の		の役割が	分担のあり方から見て、	市が宝施していく	ことが適当か
			施設管理者として市が		
	B:代替の可能性低い	本田・	これ 日本日にしていか。		׬ (m,0°
A 🔻	C:代替の可能性高い	1			
([) 士口法	C:八省の可能性高い 	<u>l</u> 港見ける	したカアロスか		
(,				_ 4マ`ロー ナー・フェバ	学立し赤もとは空中した新知田が担
評価	A:満足できる	埋田:		こ	従来と変わらぬ安定した施設利用が提
A 🔻	B:一部満足できない		供されている。		
/ c \ / - + + 14	C:満足できない	0 *F *** +	Ċπ+2 <i>σ+</i> + ι		
	上・・・当該事業は上位			()	
評価	A : 有効である	理由:			との鑑賞機会を提供する施設の機能維
A -	B:一部有効である		持は必要不可欠である	ことから、有効であ	する 。
, i	C:有効でない				
≐亚/悪ノギ	*ニンフィ」 達	成度		成果向上の余地	
計1川八	デランスチャ ー ト ^達 人	<u></u>			説明:
				┌ ある	充分な成果が得られたと考えている。
	B	↓ \			
	有効性		必要性	マ な い	
	✓ C	† <i>></i>			
	*	X			
		\times		コスト改善余地	
	X	\ \			説明:
	C	† ,			年度ごとに振り分けられている修繕のう
	市民満足度	1	経済性·効率性	□ ∞ ∞	ち、類似する設備の修繕を集約すること
		/		□□ない	により、コストの削減が図られると思われ
	A				る。
	事業の	」 D代替性			∞ ₀
ᄀᄱᄼᆖᇎ				I	
7 総合評(Щ	ı			
	AAA ▼	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,</u>			
±m /==	/ V V \	他自治			
評価		体の類			
		似事業			
		との比			
	後の進め方	較			
	継続				
\	REC ROU		会館から既に10年以上	-経過しているため	b、各設備の老朽化などに対応し、毎年
	見直し]	修繕を実施していく必要		
	д Д ∪]			
	廃止	説明			
	<i>7</i> 6				
	完 了				
2一次氫品	 面における変更点	<u> </u>			
□一八叶Ⅱ	単にのける文文宗				